

岡山初の「新聞カフェ」

川崎医療福祉大
切り抜きや意見交換

地域や大学に新聞を読むスペースを設け、ワークショップなどを通して社会へ目を向ける「新聞カフェ」が全国各地で開かれている。岡山県

内では本年度のNIE実践校に指定された川崎医療福祉大(倉敷市松島)が7月17日に初めて開催。学生が新聞記事を切り抜いて討論と壁新聞作りを同時に行うワークショップ「まわしよみ新聞」を体験した。

「新聞は、社会に関心を持ち、将来へと展望を描く格好の教材」と同カフェを発案した北澤正志講師(57)は語る。同大では、7月から学内に開設された「ラーニングサポートセンター」の活用策として企画。昼休みを活用して開き、同大医療技術学部の3、4年生ら約20人が参加した。

太タイムズ」から、興味を引かれた記事を切り抜き。記事の内容や選んだ理由を順番に発表し合い、グループで自由に意見を交わした。西日本豪雨被災地の現状を伝える記事に「僕らにもできることを考えないと」と話し合ったり、サッカーの記事で盛り上がりたり、国内旅行の格安プランの広告も取り上げたりした。切り抜いた記事をグループごとに配られた模造紙に貼り合わせ、コメントを書き込み、壁新聞にした。

「これまで新聞を本気で読んだことはなかったが、思った以上に多様なニュースがあって面白かった」と同学部4年小倉弘之さん(22)。同大では、9月から定期的に新聞カフェを開く予定で、北澤講師は「学生たちが新聞に親しむきっかけにしたい」と話す。(大石哲也)

4、5人のグループに分かれ、山陽新聞朝刊や毎週日曜発行の「さん

きたい」と話す。(大石哲也)



新聞カフェのワークショップで参加者が完成させた壁新聞